

特別企画展

福生の植物-雑草-



福生市郷土資料室

福生の植物 - 雑草

あなたのまわりには自然はありますか？
“山や林がないから自然もない”とは思っていないでしょうか。たしかに山などへ行けば、多くの動物や植物を見ることができます。だからといって、わたしたちの身边には自然がないとは言いきれません。

周囲を見まわしてみれば、路ばたにも空地にも以外に多くの植物たちが生活しています。彼らは「雑草」と呼ばれ、ずいぶんと憎まれています。表情はたいへん豊かなものです。ここに集めた標本は主に中央図書館の周辺で見られるものです。

季節によって、また年によって雑草たちも異ったものが現われたり消えたりします。以外とかわいらしい花をつけたりもします。もっとも身近にある自然、それが雑草だといっても言い過ぎではないでしょう。

春

ハルジオン *Erigeron philadelphicus* L (キク科)

北アメリカ原産で大正年間に日本へ帰化した。主に都市近郊の空地、道ばたに多いが田んぼの畦や畑の周囲にも群生する。似たものにヒメジョオンがある。春紫菀の意でハルジオンは正しくない。

カタバミ *Oxalis corniculata* L (カタバミ科)

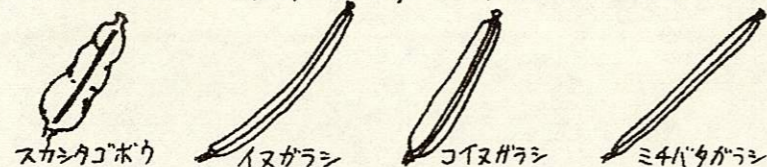
歴史時代以前(史前)に帰化したもので、原産地は不明。家の周囲や庭、道ばた、畑などに広く分布する。花や葉の赤いものをアカカタバミと言うが、種類としては同じもの。

ハハコグサ *Gnaphalium multiceps* wall (キク科)

東南アジア原産の史前帰化植物。荒地、道ばた、田や畑に生育する。春の七草のオギョウはこの草。草もちにも使用され、ヨモギよりも色、香りともに優れている。似たものにアキノハハコグサがある。

スカシタゴボウ *Rorippa palustris* Bess (アブラナ科)

旧世界原産の史前帰化植物。畑や樹園、田んぼの畦や湿地などに多く生育する。スカシの意味は不明だが、ゴボウは根を見たてらしい。似たものに次のイヌガラシやミチバタガラシ、コイヌガラシなどがある。



菘種の果実

イヌガラシ *Rorippa indica* Hiern (アブラナ科)

東南アジア原産の史前帰化植物。家の庭、空き地、道ばた、田の畦、畑、樹園などによく生育する。カラシナに似て食用にならないのでこの名がある。似たものに前種やミチバタガラシがある。

ツメクサ *Sagina japonica* Ohwi (ナデシコ科)

原産地は不明。ほぼ全世界に分布するいわゆるコスモポリタン。道ばた、畑、庭など、どこにでも生える。葉の形が鳥のツメに似ているのでこの名がある。

キュウリグサ *Trigonotis peduncularis* Benth (アラクキ科)

ユーラシア原産の史前帰化植物。野原や人里近くの空き地、荒地、道ばたなどの陽地から半陰地にかけて多く生育する。葉をもむとキュウリのような臭いがする。似たものにハナイバナ。

オオイヌノフグリ *Veronica persica* Poir (ゴマハクサ科)

ヨーロッパの原産で明治初期に日本に帰化。空き地、荒地、庭、道ばたなど陽当たりの良い所に生育。8月頃からコバルトブルーの小さな花をたくさんつける。似たものにタチイヌノフグリ、イヌノフグリがある。

セイヨウタンポポ *Taraxacum officinale* Weber (キク科)

ヨーロッパ原産の帰化植物で、都会地周辺の道ばた、空き地、庭などに生育する。サラダ菜などとして食用にできる。似たものにカントウタンポポがある。

スズメノテッポウ *Alopecurus aequalis* Sobol (イネ科)

ユーラシア原産の史前帰化植物。湿地や田、畑に多くはえる。茎を引き抜いて、笛にしてピーピと鳴らせる。名前は花穂の形からきている。似たものにセトガヤがある。

ヤエムグラ *Galium Aparine* L (アカネ科)

ユーラシア原産の史前帰化植物。野原、堤防の斜面、荒地、道ばた、家の周辺、畑などに多く生育する。小さな丸い実をつけ、表面にトゲがあつて衣服につく。4~8枚の輪生葉が名の由来。

ノボロギク *Senecio vulgaris* L (キク科)

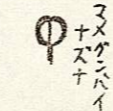
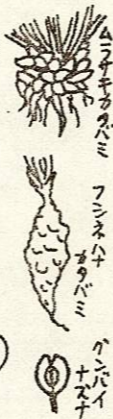
ヨーロッパ原産で明治の初期に帰化した。空き地、道ばた、畑などに普通に見られる。一年中花をつけるので、冬の間でも陽当たりの良いところでは花を見ることができる。

ムラサキカタバミ *Oxalis Martiana* Zucc. (カタバミ科)

南アメリカの原産で江戸時代に渡来。道ばた、畑、庭園などに生育している。種子をつくらずに、鱗茎で増えていく。似たものにフシネハナカタバミがある。

マナグンバイナズナ *Lepidium virginicum* L. (アブラ科)

北アメリカの原産で明治中期に帰化。空き地、荒地、道ばたなどに生育。種子が軍配扇に似ているグンバイナズナに似て、実が小さいことでのこの名がある。



コアカザ *Chenopodium ficifolium* Smith (アカザ科)

ヨーロッパ原産の古い帰化植物。荒地、道ばた、畑などに多く生育する。似ているシロガでは赤い粉をふくもの(アカザ)が見られるが、本種ではこのような型のものはない。

ハキダナヅク *Galinsoga ciliata* Blake (キク科)

熱帯アメリカの原産で近年日本に帰化。都会地周辺の空き地、荒地、道ばた、庭などに多く生育する。掃溜に生える菊という意味で、牧野富太郎氏の命名。

ヒメジヨオン *Erigeron annuus* L. (キク科)

北アメリカの原産で明治維新の頃に帰化。空き地、荒地、道ばた、野原、畑などに生育する。本種の茎はつまっているが、ハルジオンの茎は中空である。姫女莞の意。ヒメジオン、ヒメシオンというのは誤り。



ノボロギク



ヤエムグラ



ムラサキカタバミ

夏

トキンソウ *Centipeda minima* O Kuntze (キク科)

東南アジア原産の史前帰化植物。道ばた、畑、庭などに普通に生育する。花をつぶすと、黄色い実が出てくるので吐金草の名がある。

キクイモ *Helianthus tuberosus* L. (キク科)

北アメリカの原産で栽培されたものが野生化したもの。北海道に特に多いが、他の地域でも荒地や畑などに群生する。地下に塊茎をつくる(食用になる)のでこの名がある。

バタクサ *Ambrosia elatior* L. (キク科)

北アメリカの原産で明治初期に帰化。道ばた、荒地、畑などに多く生育する。本種の葉は対生なので、互生のヨモギとは簡単に区別がつく。名は英名Hogweedからきている。

オオアレチノギク *Erigeron sumatrensis* Retz. (キク科)

南アメリカ原産で熱帯アジア経由で大正年間に日本に帰化。空き地、荒地、道ばたや畑などによく生育する。よく似たヒナムカシヨモギとともに鉄道草とも呼ばれるが、近年はこちらの方が数が多くなっているらしい。



ヒナムカシヨモギ *Erigeron canadensis* L. (キク科)

北アメリカの原産で明治初期に帰化。空き地、荒地、道ばたや畑などに群落をつくる。似たものにオオアレチノギク、アレチノギクがあり区別がむづかしい。

ヒルガオ *Calystegia japonica* Choisy (ヒルガオ科)

野原、道ばた、荒地、空き地、畑などに多く生育する。根(地下茎)が小さく、切れてもよく芽を出す。通常果実はできない。昼に花を開くのでこの名がある。似たものにコヒルガオがある。

コナスビ *Lysimachia japonica* Thunb (サクラソウ科)

東南アジア原産の史前帰化植物。野原や道ばた、空き地などに生育する。小さなナスのような丸い実をつけるのでこの名がある。

ヤブガラシ *Cayratia japonica* Gagn. (ブドウ科)

荒地、空き地、土手の斜面、川原、やぶ地などいたるところに広く生育する。他の植物に覆いかぶさってやぶをがらしてしまうのでこの名がある。似たものにアマチャヅルがある。

コニシキソウ *Euphorbia supina* Rafin. (トウダイグサ科)

北アメリカ原産で明治中期に日本に帰化。道ばた、空き地、庭、鉄道線路などいたる所に広く生育する。似たものにニシキソウ、オオニシキソウがある。

ザクロソウ *Mollugo stricta* L. (ザクロソウ科)

東南アジア原産の史前帰化植物。空き地、道ばた、畑地などに生育する。葉がザクワの葉に似ているのでこの名がある。似たものにクルマバザクロソウがある。

ミチマナギ *Polygonum aviculare* L. (タデ科)

ほぼ世界中に分布するコスモポリタンで原産地は不明。荒地、空き地、庭、道ばたなどに広く生育する。葉の形がマナギに似ているのでこの名がある。

ニフゼキショウ *Sisyrinchium angustifolium* Mill. (アマノ科)

北アメリカ原産で明治中期に日本に帰化。道ばた、田畑のまわり、草地などに生育。初めは観賞用として入ったものらしい。紫と白の二つがある。

エノコログサ *Setaria viridis* Beauv. (イネ科)

ユーラシア原産の史前帰化植物。野原や空き地、道ばた、畑の周辺などに最も普通に生育する。名は總が犬の尻の尾に似ているので犬ころ→エノコロと名付られたと思われる。似たものにアキノエノコログサがある。

オヒシバ *Eleusine indica* Gaertner (イネ科)

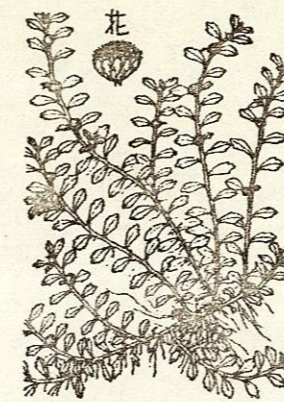
旧熱帯原産の史前帰化植物。日当りのよい野原や道ばた、荒地、空き地、畑地などに多く生育する。強い日差しの下に生える芝の意味で日芝、大形なので雄日芝と名付られた。似たものにヒメシバがある。

ヘクソカズラ *Paederia scandens* Merrill (アカネ科)

荒地や草やぶ、山林の周縁などに生育する。茎や葉を折ると悪臭を放つのでヘクソの名がついた。オズラは蔓で、つる性のものを一般にさす。

ヘラオオバコ *Plantago lanceolata* L. (オオバコ科)

ヨーロッパの原産で、幕末の頃日本へ帰化。道ばた、荒地、砂地や河原などに生育。葉がへらのようになっているのでこの名がある。似たものにオオバコ、ツギミオオバコがある。



トキンソウ



ヒルガオ



ヤブガラシ



コニシキソウ



ザクロソウ



ヘクソカズラ

秋

センダングサ *Bidens biternata* Merr. et Sherff
(キク科)

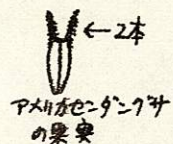
ほぼ全世界に分布するコスモポリタンで原産地は不明。やや湿った荒地や空き地、畑などに多く生育する。葉の形がセンダンに似ているのでこの名がある。似たものにアメリカセンダングサ、コセンダングサがある。

セイタカアワダチソウ *Solidago altissima* L.
(キク科)

北アメリカ原産で明治30年頃に日本へ帰化。主に都市近郊の空き地や荒地、道ばた、土手や河川敷などに多く生育する。この花粉でアレルギーをおこす人もいる。似たものにオオアワダチソウ、カナダノアキノキリンソウがある。

ナギナタコウジュ *Elsholtzia ciliata* Hylander
(シロ科)

ユーラシア原産の史前帰化植物。山野に広く生育するが、耕作周辺の荒地や道ばたにも見られる。花穂の形がナギナタに似るのでこの名がある。葉や茎をもむと独特のにおいがある。



←センダングサの仲間には果実のトゲ(冠毛の変化したもの)を見ればわかる。

ヒナタイノコヅチ *Achyranthes Fauriei* Lév. et Van
(ヒユ科)

山野、荒地、道ばたなどに多く生育する。果実は秋動物の毛や衣服などについて分布を広げる。茎の節をイノシシの膝頭に見たてたらしい。似たものに(ヒカゲ)イノコヅチがある。

シロザ *Chenopodium album* L. (アカザ科)

ほぼ全世界に分布するコスモポリタンで原産地は不明。日本へは中国経由で入ってきた。荒地、畑、空き地、道ばたなどに広く生育する。若い葉や茎が白く粉をふいたようなのでこの名があるが、ザの意味は不明。アカザはこれの変種。

カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc.
(クワ科)

原野、荒地、道ばた、土手、畑などいたる所に生育する。茎や葉に短いトゲがありざらつく。茎が強力な(鉄)、ぼうぼうとはえるのでムグラ。

カヤツリグサ *Cyperus microiria* Steud
(カヤツリグサ科)

畑や空き地、草地、道ばたなどに普通に生育する。茎を両方から二つにさくと四角形になり、蚊帳をついたようになるのでこの名がある。似たものにチャガヤツリ、コゴナがヤツリがある。

ススキ *Miscanthus sinensis* Anderss (イネ科)

山野や丘陵地、土手、空き地などに生育する。花穂は尾花と穂し秋の七草の一つ。名の由来はすくすく立つ木(草)ともすず(鳴物)の木とも言われる。

ビロウドモウズイカ *Verbascum thapsus* L.
(ゴマ)ハグサ科)

ヨーロッパ原産で明治の初期に日本へ帰化。鉄道沿線や路傍、河原などに生育する。初めバーバスクムとして観賞用に入ったものが野生化したもので、高さは2mにもなる。

ホナガイ又ビユ *Amaranthus viridis* L. (ユリ科)

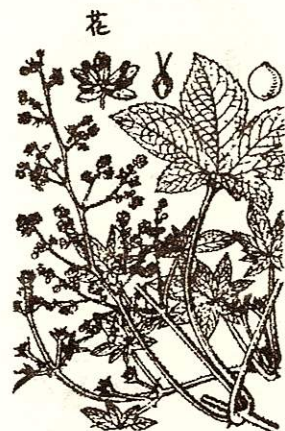
熱帯アメリカ原産の帰化植物。道ばた、空き地、荒地、畑などに生育する。似たものクイ又ビユ、アオゲイトウ、ホソアオゲイトウなどがあり、区別は難しい。



センダングサ



ナギナタコウシュ



カナムグラ

